

## 伊豆市生活交通ネットワーク形成計画（案）パブリック・コメントの実施結果について

## 1. パブリック・コメントの実施概要と結果

## (1)意見募集期間

平成 29 年 2 月 17 日（金）から 3 月 6 日（月）

## (2)応募対象者

- ①市内に在住・在勤・在学する方
- ②市内に事業所などを持つ法人、その他の団体
- ③本市に対して納税義務を有する方

## (3)公表した資料

伊豆市生活交通ネットワーク形成計画（案）

## (4)資料の閲覧場所

- ①市ホームページ ※ホームページアクセス件数：81 件
- ②市役所本庁総合戦略課、各支所窓口（開庁日の 8:30～17:15） ※閲覧者数：0 名

## (5)周知方法

- ①市ホームページによる広報
- ②広報いず 2 月号への掲載

## (6)意見の提出方法

所定の様式により、郵送、持参、電子メール、ファクシミリのいずれかにて提出

## (7)意見の応募者数及び件数

1 名・3 件（男女内訳 男性：1 名、女性：0 名）

## (8)提出方法内訳

郵送：0 名、持参：0 名、電子メール：0 名、ファクシミリ：1 名 計：1 名

## 2. お寄せいただいたご意見・ご提案に対する市の考え方

提出意見（要約）	意見に対する市の考え方
<p><b>【箇所：観光客の動向】</b> 一定金額で伊豆半島内のバス・鉄道・船・レンタサイクルなど乗り放題の券（1日券、3日券、1週間券）を作成してはいかがか。 旅行者の時間節約やレンタサイクル利用などを目的に、鉄道やバスの有人駅で荷物託送サービス（駅から駅、駅から目的地）を設けてはいかがか。</p>	<p>本提案にあります取組内容につきましては、基本方針2－事業4「利用しやすい公共交通・魅力向上事業」に該当するものであり、今後、施策を実施する上での具体的事業の参考意見として活用させていただきます。</p>
<p><b>【箇所：路線バスの収支状況】</b> 不採算路線でも住民の足として大切な公共バスを廃線にするわけにもいかない為、TV番組で放送されていた収支改善・サービス向上の取組の一例を紹介します。 (例) 高齢化率の高い島で唯一の公共交通機関である路線バスの運転手が、運行のついでに新聞配達、荷物の配達等を行っている。 停留所以外での乗降を可能としている。 (停留所が近いとバスの乗車率が上がるというデータが示されていた。)</p>	<p>ご紹介いただいた事例については、基本方針1－事業1「地域ごとの交通システムの再編・導入（支線の設定）事業」に該当するものであり、特に地域内交通の導入検討の際には、地域ごとの実情にあわせた取り組みが必要と考えておりますので、今後、効率性の向上やサービスの向上における具体的な取組事例、参考意見として活用させていただきます。</p>
<p><b>【箇所：基本方針3－事業5 地域の公共交通維持に向けた協働の仕組みづくり事業】</b> バスが廃線になった場所では、タクシーを利用するが、福祉タクシー等利用券は2、3回の利用で使い終わってしまう。バスならもっと多くの回数が乗れる為、地域の高齢者はバス運行の復活を望んでいます。 ただし運行スケジュールと住民ニーズが合わないという意味がない為、住民に対しバス利用調査を詳細に行うべきだと思います。</p>	<p>頂いたご意見については、基本方針1－事業1「地域ごとの交通システムの再編・導入（支線の設定）事業」、基本方針3－事業5「地域の公共交通の維持に向けた協働の仕組みづくり事業」に該当するものであり、地域内交通の導入について「地域住民」と「事業者」「行政」が協働して検討して行く際の参考意見として活用させていただきます。</p>